



わたしも狂言、
やってみたいな。

よあけの焚き火

23回オリンピック国際映画祭
長編ドキュメンタリー部門
最優秀監督賞

第21回小津安二郎記念
蓼科高原映画祭
正式招待作品

大藏基誠 大藏康誠 鎌田らい樹 坂田明
監督・脚本・編集：土井康一

プロデューサー：村山憲太郎 撮影：丸池納 照明：三重野聖一郎 録音：北村峰晴 音楽：坂田学
製作・配給：桜映画社 配給協力：ポレポレ東中野

2018年/72分/カラー/ビスタ/日本

父と息子。職業、狂言方。

雪解け近い、山の稽古場。

六五〇年の伝統をもつ狂言方の家に生まれた大藏基誠と、十歳になる息子・康誠。

冬、父と息子は山の稽古場へ向かう。

二人は何を目的に、この山奥を訪れたのか。

ある日、親子の姿を静かに見つめる少女、咲子が現れる。

家族の歴史を背負った康誠と、家族を失った咲子。

「運命」を背負った二人の心が静かに交差し始める……。



ドキュメンタリーとフィクションを行き交いながら紡がれる家族の物語。

伝統芸能をモチーフに、「伝えること」という普遍的なテーマを昇華させた稀有な作品が誕生した。映画初主演にして自身を演じるという難役を果たした大藏基誠・康誠は、大藏流狂言方の実の親子。共演にミュージシャンの坂田明、『幼な子われらに生まれ』(17)で注目を集めた鎌田らい樹を迎え、それぞれが踏み出す一步をみずみずしく演じている。監督は本作が劇場デビュー作となる土井康一。長野県蓼科の大自然を風格ある映像で捉えたベテラン・カメラマン丸池納ほか、本作を描くにふさわしいキャスト・スタッフが集まった。



康誠君のとても綺麗な目、優しい声に惹かれました。彼の懸命な姿を見つめる咲子にも笑顔が増えて行く。咲子は狂言を知っていたのか、それとも知らずに笑顔になれたのか。能楽師狂言方の力強さを感じた。よし。また、観に行こう。——俳優 柳楽優弥

焚き火とは映画のことである。映画の放つ光の揺らめきの前で、観客は静かに告白を始めるのである。わたしもこの映画との対話によって、自分の行く末が見えてきた。「よあけの焚き火」はそういう力を秘めた、静謐な空のような映画なのである。

——多摩美術大学名誉教授 前橋文学館館長 萩原 朔美

7月8日 [北方シネマ] 17:00 『野村万作から萬斎、裕基へ』
18:00 『よあけの焚き火』
19:30 『狂言』『寝音曲』大藏基誠
20:10 大藏基誠・土井康一・トーク

北九州市小倉南区北方4-2-1 北九州市立大学 A101 080-6458-1184

7月9日 [小倉昭和館] 9:30 『野村万作から萬斎、裕基へ』
10:20 『よあけの焚き火』
9:30 11:45 大藏基誠・土井康一・トーク

北九州市小倉北区魚町4-2-9 093-551-4938

【狂言公演】『寝音曲』大藏基誠

※二本立て上映のため、通常よりも早い17時開始となります。
※狂言公演は北方シネマ限定ですが、小倉昭和館の前売り券をお持ちの方も鑑賞できます

企画：北方シネマ運営委員会
協力：北九大文化資源調査隊
助成：北九州市立大学 文学部特別講演会
助成：北九州市立大学 学長選考型研究

「ドキュメンタリー映画を活用した地域と大学間の連携事業」

同時無料上映

『野村万作から萬斎、裕基へ』
土井康一 監督作品

ワールドメディアフェスティバル
2022
パフォーミングアーツ部門
金賞

映画鑑賞料：前売 1000 円 | 当日 一般 1200 円 | シニア・障害者 1000 円 | 大学・高校生 500 円 | 中学生以下 無料